サイロキシン結合蛋白質（TBG）の妊娠前～出産後までの変動
ー甲状腺ホルモン補充療法中の橋本病妊婦における検討ー

高松内科クリニック

川﨑善子、高松順太、村上康弘、萩原英恵、王衣里子、忌部歩、峠かきの、松塚文夫、岩谷良則

COＩ開示

◎川﨑善子、高松順太、村上康弘、萩原英恵、王衣里子、忌部歩、峠かきの、松塚文夫、岩谷良則

演題発表内容に関連し、発表者らに開示すべき
COＩ関係にある企業などはありません。

導入

●妊娠に際し血中TBGは高値となるが、どの時点から上昇を示すのか、またどの時点で最高値となり出産後は直ぐに元の値に戻るか否かについては、調べ得た限りでは、1977年のUtigerらの報告以後は詳細な分析はない。

●TBGの増加が妊婦の甲状腺機能に影響しホルモン補充量の変化に影響を及ぼすか否か、についての検討も十分には行われていない。

●今回我々は橋本病妊婦の妊娠前から出産後までの血中TBG値を測定し、甲状腺ホルモン内服量の変化に注目しTGBの影響を検討した。

対象

- 2020年5月～2023年5月の間で当クリニックにおける橋本病合併妊娠患者95例を調査した。

- このうち妊娠前、妊娠初期、妊娠中～後期、出産後3か月のすべての時点で血中TBG値のデータがある患者は43名であり対象症例とした。

方法

- 妊娠前の血中TBG値を100％とし、

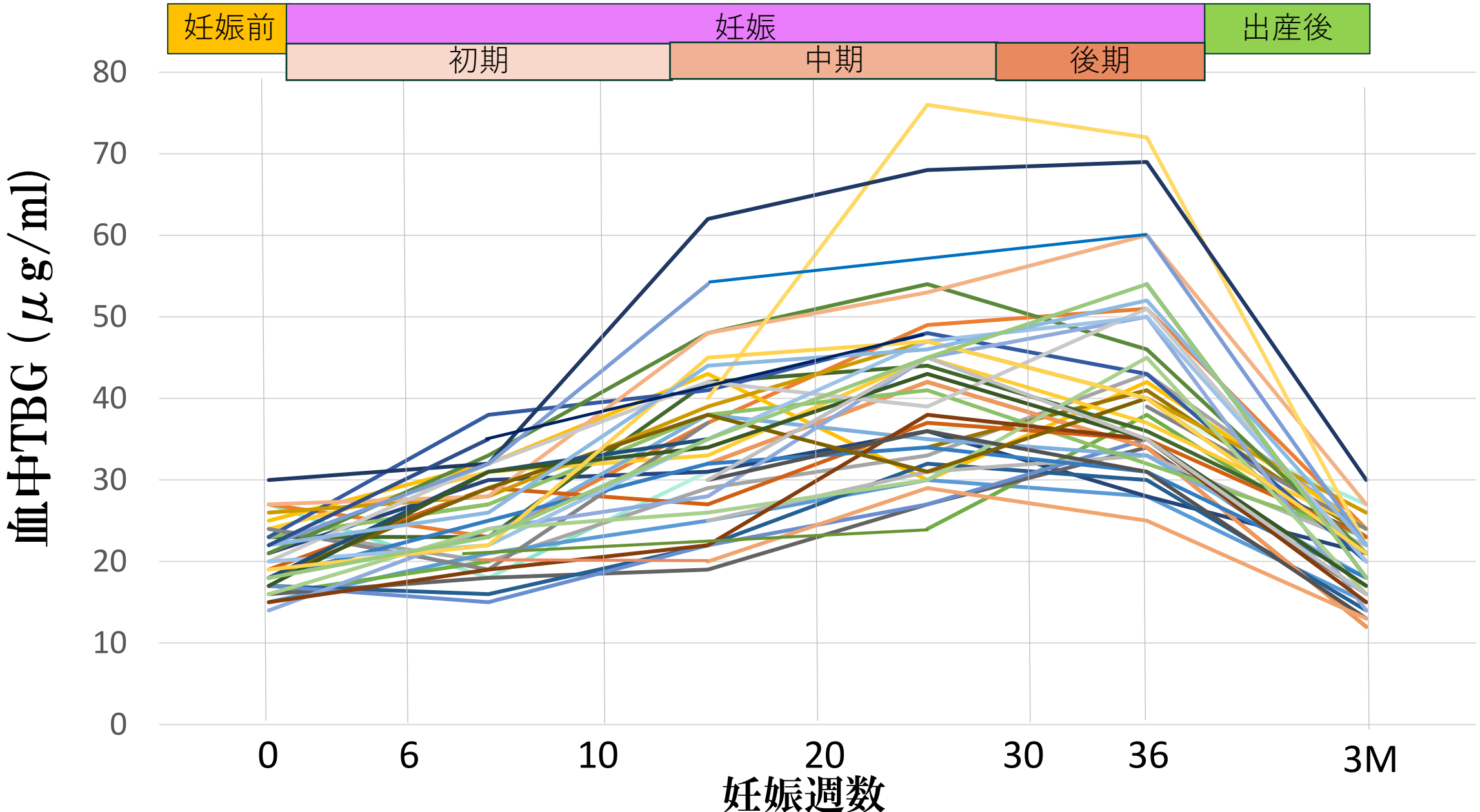
  ①6～10週②11～20週③21～30週④31週～出産⑤出産後3ヶ月

での値の推移を見、ピーク値がどの時期に来るのか、また産後3ヶ月で元の値まで戻るか否かを調査した。

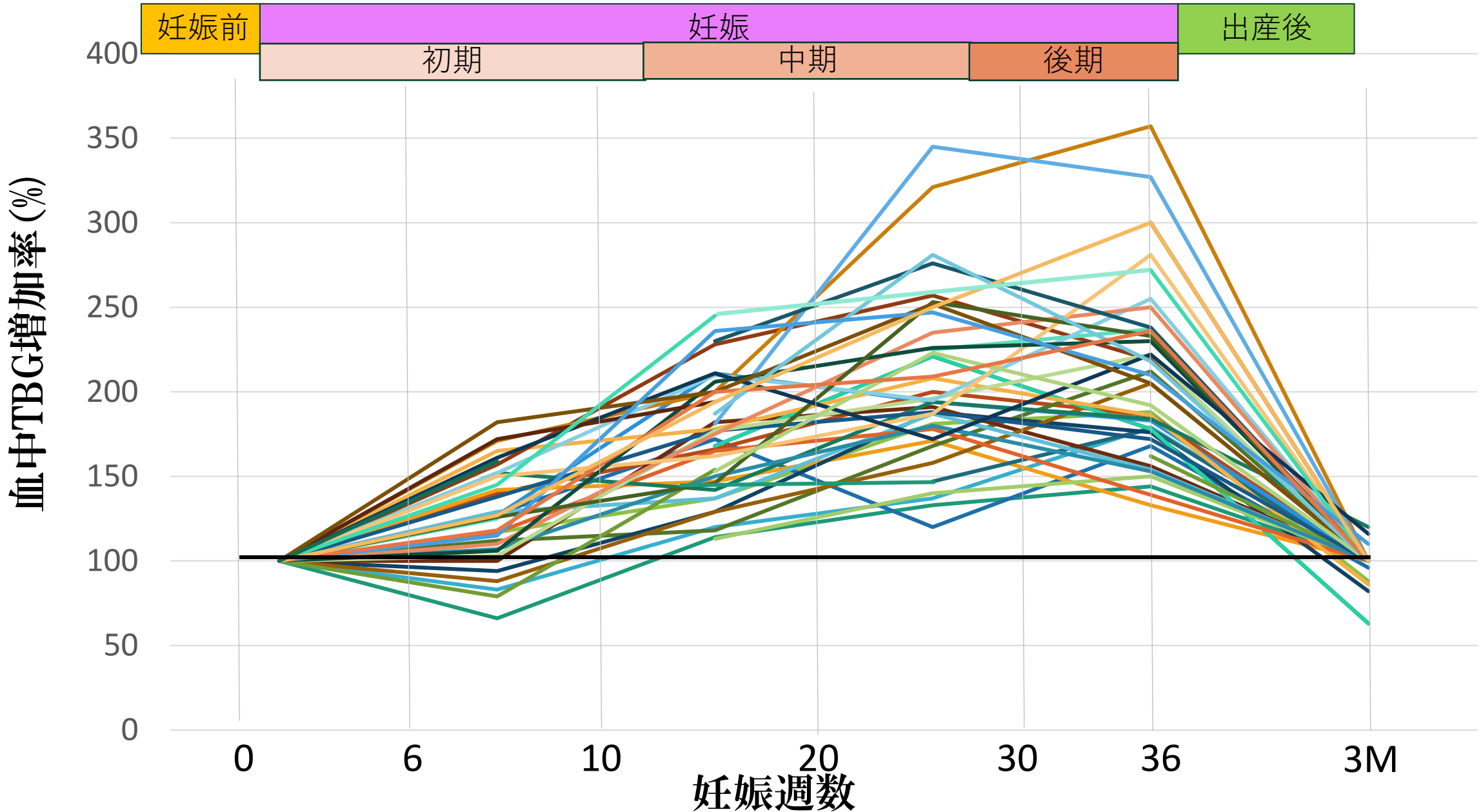
- 妊娠期間中の血中TBGの最高増加率が220％以上の群と220％未満の群の2群に分け、その2群間に妊娠期間中のTBG変動パターンに差があるか否かについても検討を行った。

- 更にその2群間でL-T4内服量の増減を確認することにより、血中TBGの増加度が甲状腺機能に影響を与えるか否か推察した。更に血中TBGが著しく高値の症例に対しても同様に検討した。

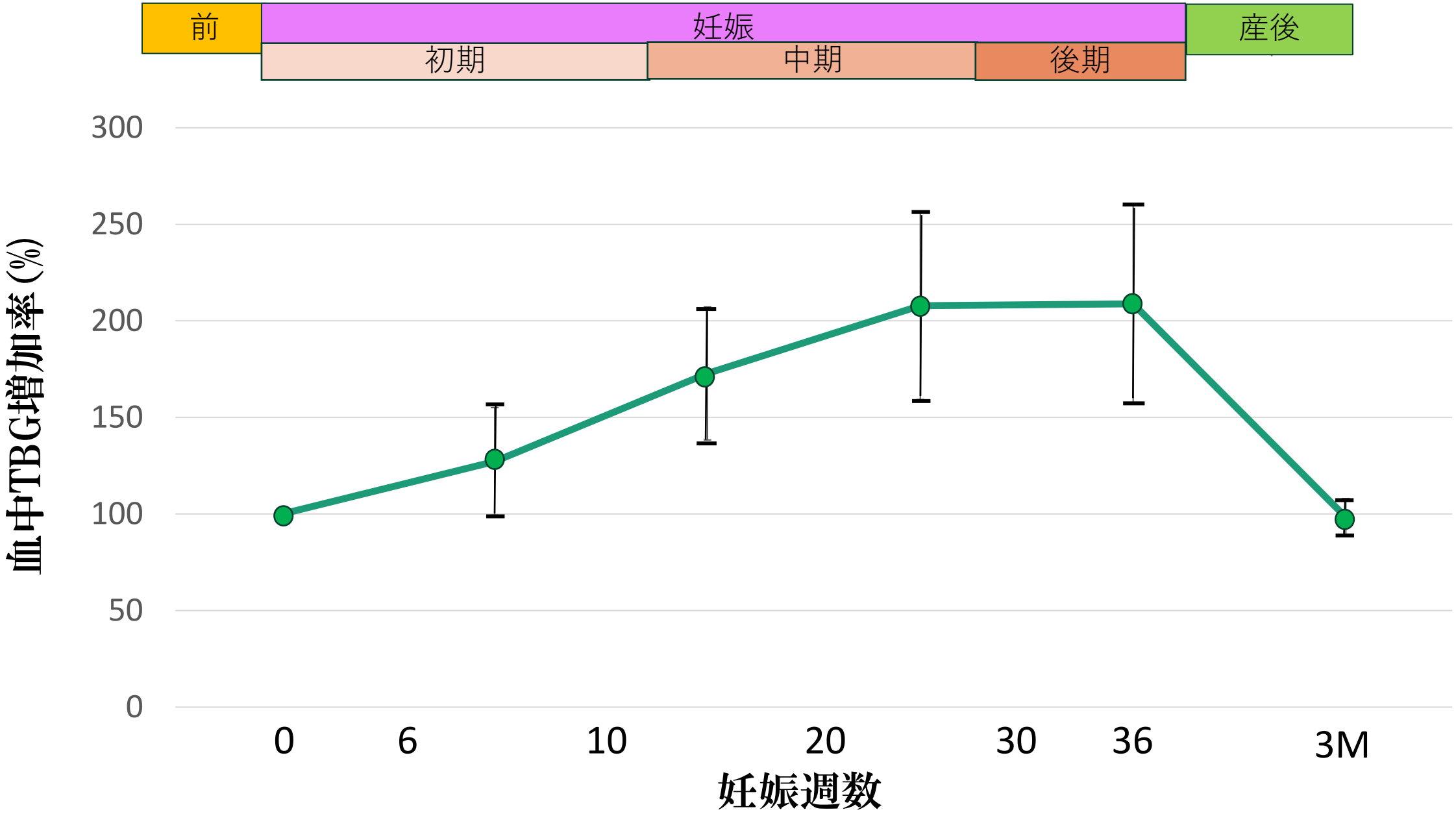
妊娠経過中の血中TBG値の推移



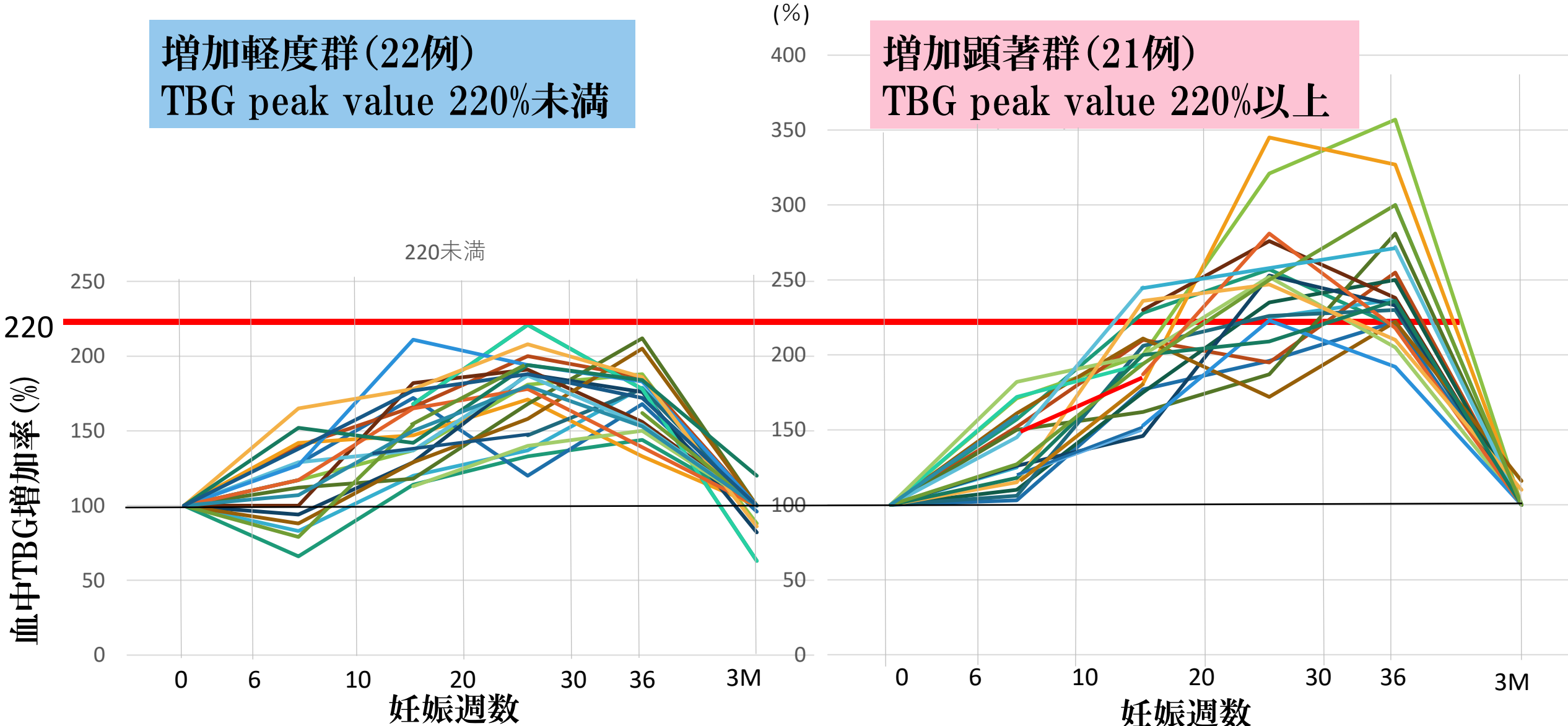
妊娠経過中の血中TBG変動率



妊娠経過中の血中TBG変動率(mean±SD)



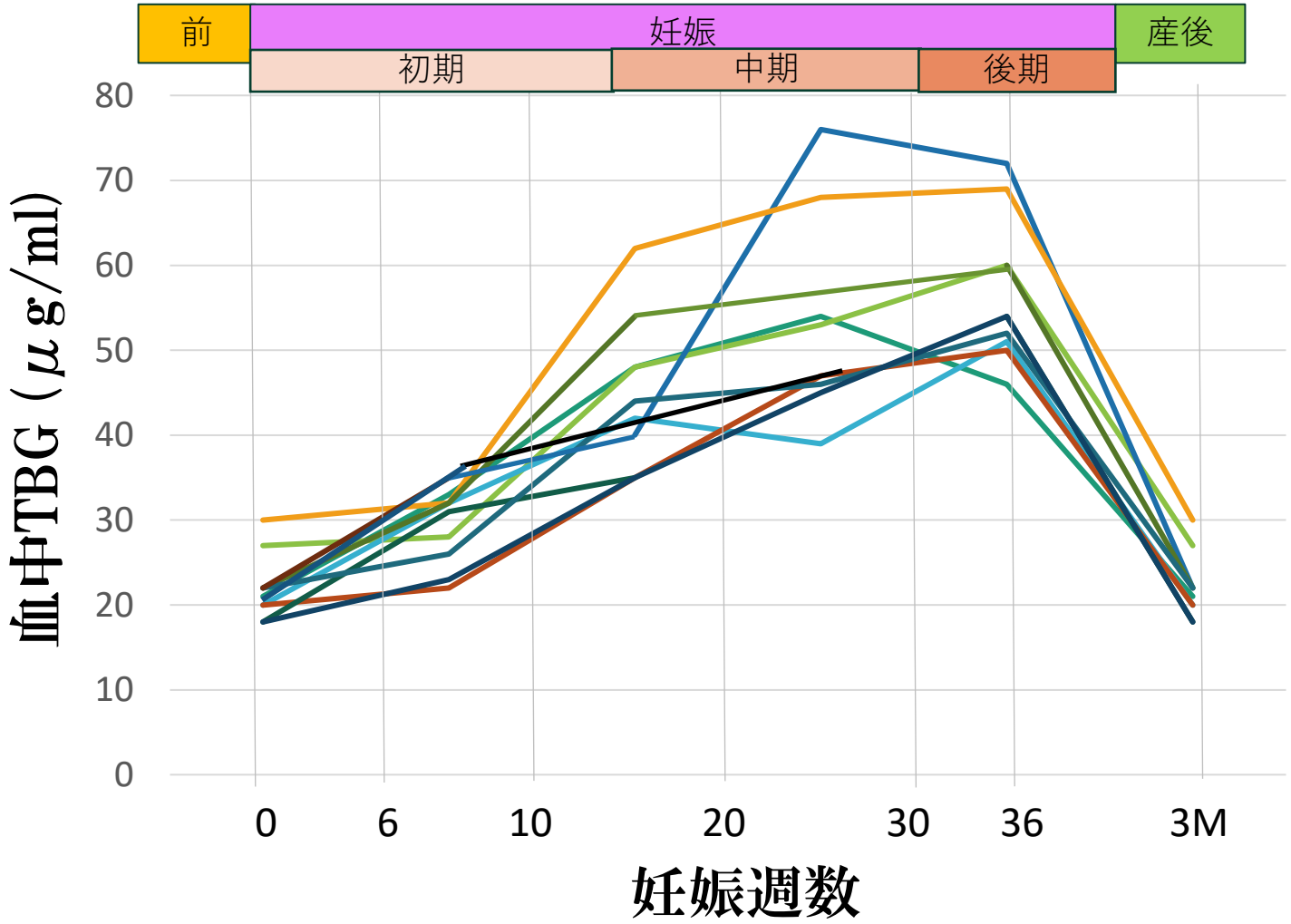
妊娠経過中の血中TBG上昇率の程度により2群に分類



2群における妊娠経過中のL-T4内服量変化

TBG増加度	n	L-T4内服量の変化		
		不変	増量	減量
全例	43	31(72%)	9(20%)	4(9%)
増加軽度群 (220%未満)	22	16(70%)	5(21%)	2(9%)
増加顕著群 (220%以上)	21	15(71%)	4(20%)	2(9%)

血中TBG頂点値が50μg/ml以上の高値11例での分析



L-T4	n
増量	1人
不変	9人
減量	1人

結果

- ✓血中TBG値は妊娠初期（10週まで）は有意な上昇は見られなかった。その後上昇を示したものの、25週から出産まで更なる増加はなかった。

- ✓妊娠中のL-T4の必要量は、多くの例(70％)において変わらなかった。TBG上昇率の大きい群に絞っても同様であった。

結論

- ✓妊婦の血中TBG濃度は、妊娠中期は上昇するが、初期と後期においては変化は少なかった。
- ✓妊娠中の血中TBGの増多が甲状腺機能に影響を及ぼし、甲状腺機能低下を助長する心配は無いと思われる。